

(編集後記)

読書の秋となりましたが、美しい仲秋の月とその彼方の無数の星々を思う時、私はどうしても、宇宙における人類の位置、ということを考えずにはおれません。宇宙が存在することには何らかの意味が、あるいは目的があるのでしょうか。人類は宇宙のために、いったい何ができるのでしょうか。このような問いに対して、万人が納得できる答えは出ないでしょうし、このような問いかけ自体が無意味なことかもしれません。しかし、文学の研究を続けるうちに湧き上がってくる、父なる宇宙への思い、母なる宇宙への思いを、私は打ち消すことができません。

科学技術のめざましい発展によって、人類は飢餓と疫病を克服し、膨大な食糧と工場生産物の供給を可能にしました。そのことを宇宙は喜んでいてくれるとは思いますが、宇宙がより大きな関心を寄せているのは、何といても、人類が生み出した優れた思想・文学・芸術に対してではないでしょうか。そして、自然科学と人間科学の高次の統合の上において、人類がさらに力強い一步を踏み出すことを、宇宙は期待しているのではないのでしょうか。私たちはそれぞれの専門分野の研究を深めることによって、この素晴らしい宇宙にいつその輝きを添えるべく、力を尽くさねばならないと思います。

(神山重彦 記)

人間文化：愛知学院大学人間文化研究所紀要 第27號

平成24年9月10日印刷
(非売品)
平成24年9月20日発行

編集兼発行者
愛知学院大学人間文化研究所長 松 蘭 齊

〒470-0195
愛知県日進市岩崎町阿良池12番地
電話 0561 (73) 1111 (内線1875番)

印刷所 株式会社 あるむ